

総合健診センター  
**がん予防だより**

第13号 平成24年6月 公益財団法人 愛知県健康づくり振興事業団 発行

〒470-1101 豊明市沓掛町石畑142-20 TEL 0562-92-9011 FAX 0562-92-9013 <http://www.aichi-kenko.or.jp>

シリーズ **がん予防トピックス 10**

## 子宮頸がん予防はHPVワクチンと

## 子宮頸がん検診の併用で

富永 祐民 先生

(愛知県がんセンター名誉総長)

## ●子宮頸がんは30歳未満に最も多いがん

図1は子宮頸がんと乳がんの年齢別罹患率を示したものです。子宮頸がんの罹患率は30歳未満では乳がんの罹患率より高く、子宮頸がんは女性のがんで最も高率ながんです。子宮がんは子宮頸がんと子宮体がんに大別されますが、子宮頸がんは30歳代、40歳代の若年女性に多く、子宮体がんは50歳代、60歳代の高齢女性で多くなっています。また、以前は子宮体がんは少なかったのですが、近

年増加傾向を示し、最近では子宮頸がんと子宮体がんの比率は約2対1になっています。

## ●HPVワクチンによるHPVウイルスの感染防止

子宮頸がんの主な危険因子は早婚・多産とHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染です。HPVには多数の型がありますが、子宮頸がんの原因となっているのは主として16型、18型で、子宮頸がんの原因の約7割を占めています。現在HPV16、

年齢	子宮頸がん	乳がん
20-24	3.6	0.3
25-29	10.4	6.2
30-34	17.1	19.6
35-39	22.6	46.8
40-44	25.7	107.1
45-49	21.6	154.5
50-54	16.9	139.3
55-59	18.5	135.7
60-64	13.3	146.2
65-69	13.3	133.7
70-74	16.7	119.6
75-79	14.0	105.8
80-84	19.2	89.5
85+	19.3	80.3

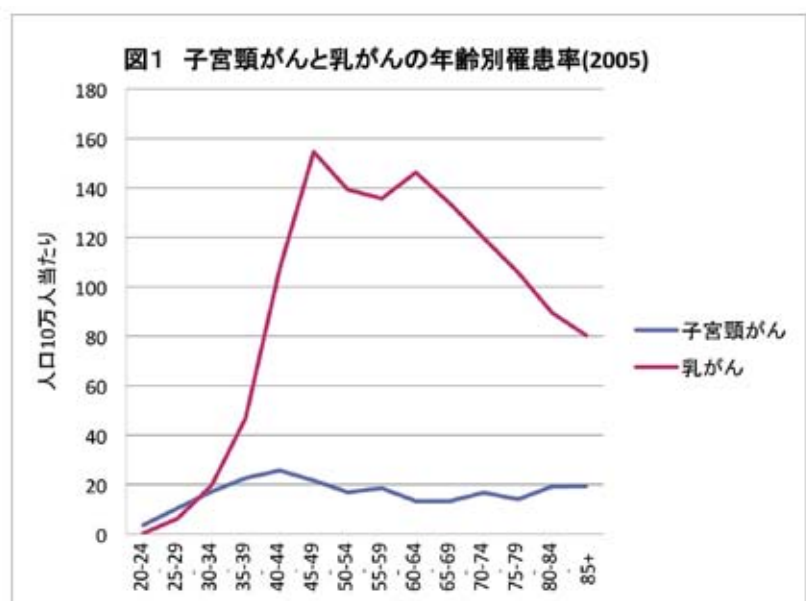


図1の基礎データ

18 型に対するワクチンが 2 種類市販されています (ガーダシルとサーバリックス)。これらのワクチンは図 2 に示すように、HPV ウイルスの感染を防止するもので、除菌効果はありません。HPV ウイルスは性行為により感染しますので、性行為が始まる前の若年女性に接種する必要があります。しかし、このワクチンは 3 回接種する必要があり、高価 (3 回接種で約 5 万円) なため、2010 年度から暫定的に 10 - 14 歳の女性に対して公費補助で接種されていますが、厚生労働省は来年度から予防接種法に基づいて行うことに決定しました。ワクチン接種により、発赤、痛み、腫れなどの副作用がみられますが、重篤な副作用はみられていません。子宮頸がんワクチンが対象年齢の全女性に接種されると約 7 割の子宮頸がんが予防できると推計されています。

これまでに行われた子宮頸がんに関する疫学的研究から、避妊法でコンドームを使った場合は子宮がんリスクが低くなることがわかっていますので、コンドームも HPV ウイルスの感染防止に役立ちます。

●子宮頸がんの予防は HPV ワクチンと  
子宮頸がん検診の併用で

HPV ワクチンは HPV ウイルスの感染防止に役立ちますが、HPV に感染している人には無効です。また、HPV16, 18 型に対するワクチンでは約 7 割は感染防止が可能ですが、3 割の感染者が残り、すでに HPV ウイルスに感染している女性も多いので、子宮頸がん検診を併用する必要があります。現在 20 歳以上の女性に対して 2 年毎に子宮頸がん検診を受けることになっていますが、20 歳から 40 歳までの女性に対しては 5 歳毎に無料クーポンが発行されています。

子宮頸がん検診を受けて早期がん (粘膜内がん) が見つかった場合は軽微な手術 (円錐切除) で治癒し、妊娠・出産も可能です。子宮頸がん検診を受けず、進行がんで診断された場合は、手術療法、化学療法、放射線療法を受けても治癒率は低く、QOL (生活の質) も低くなるので、HPV ワクチンの接種を受け、避妊にコンドームを使い、20 歳以上の女性では定期的な子宮頸がん検診の受診で身を守る必要があります。

図2 子宮頸がんの自然歴と予防対策

